

II 農 業

- 1 農業の概要
- 2 農作物
- 3 畜産
- 4 農業・畜産生産振興事業
- 5 家畜伝染病予防・病虫害防除・
鳥獣被害防止対策事業
- 6 農業農村整備の概要

II 農業

1 農業の概要

(1) 農家数

2020年にける八重山圏域の農家数は899戸で、県全域の約6%を占める。その内、販売農家は838戸おり圏域内に占める割合は93%で、他圏域と比較すると高い割合となっている。

また、主副業別農家では、主業及び準主業の占める割合が、石垣市で51%、竹富町で63%となっており、県全域の割合に比較し高い地域となっている。

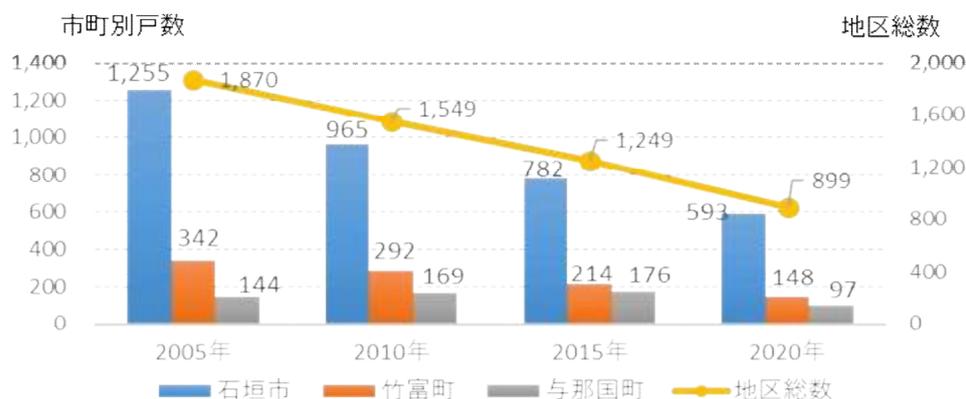
■ 2020年農家数に占める販売農家の割合

単位：戸

	総農家数		
	販売農家	自給的農家	
県計	14,747	10,674 (72%)	4,073
北部	3,805	2,789 (73%)	1,016
中部	1,657	650 (39%)	1,007
南部	4,426	2,714 (61%)	1,712
宮古	3,960	3,683 (93%)	277
八重山	899	838 (93%)	61
石垣市	620	593 (96%)	27
竹富町	164	148 (90%)	16
与那国町	115	97 (84%)	18

※資料：2020年農林業センサス

■ 販売農家の推移(地区総数及び市町別戸数の推移)



■ 主副業別経営体数

単位：戸

市町村	計	主業		準主業		副業的
		65歳未満の農業専従者がいる		65歳未満の農業専従者がいる		
2020年 石垣市	586	232 (40%)	214 (92%)	64 (11%)	34 (53%)	290
竹富町	145	83 (57%)	79 (95%)	8 (6%)	5 (63%)	54
与那国町	103	17 (17%)	16 (94%)	28 (27%)	15 (54%)	58
2015年 石垣市	782	303	286 (94%)	135	73 (54%)	344
竹富町	214	123	122 (99%)	27	19 (70%)	64
与那国町	176	45	38 (84%)	64	23 (36%)	67
2010年 石垣市	965	361	335 (93%)	219	126 (58%)	385
竹富町	292	158	147 (93%)	41	22 (54%)	93
与那国町	169	39	29 (74%)	74	41 (55%)	56

※資料：農林業センサス

(2) 年齢別基幹的農業従事者

2020年における八重山の基幹的農業従事者は994名で、65歳以上は56%を占めている。県全域の比較し緩やかであるが高齢化が進んでいる。

2010年及び2015年と比較すると、年齢別では50～59歳の割合の減少が顕著となっており、若い年齢層が進展していない状況にあり、引き続き担い手の確保は重要な課題となっている。

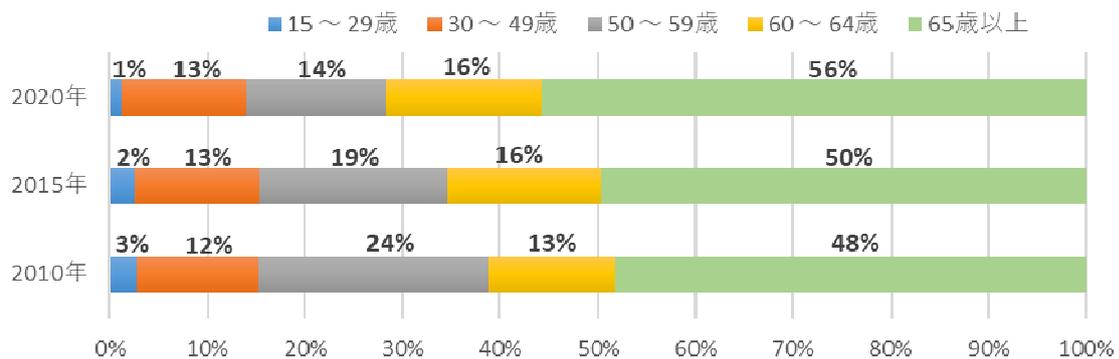
■2020年圏域毎の比較表

単位：人

	計	15～29歳	30～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
県計	13,288	138	1,483	1,729	1,903	8,035 (60%)
北部	3,717	40	506	491	566	2,114 (57%)
中部	957	12	149	101	120	575 (60%)
南部	3,551	47	466	524	481	2,033 (57%)
宮古	4,068	27	235	471	577	2,758 (68%)
八重山	994	12	127	142	159	554 (56%)
石垣市	737	10	88	102	104	433 (59%)
竹富町	173	2	29	27	38	77 (45%)
与那国町	84	0	10	13	17	44 (52%)

※資料：2020年農林業センサス

■八重山圏域における年齢別構成比の年比較表



(3) 耕地面積

八重山の耕地面積は、令和4年で7,662haで、その内、畑は7,203haで約9割以上を占め、県全域の約21%となっている。

一方、八重山の田は452haで、圏域内の約6%となっているが、県全域の田の約57%を占め、県内における主な米の生産地となっている。

■八重山圏域耕地面積の推移

単位：ha

年	耕地面積	耕地面積	
		田	畑
令和4年	7,662	452	7,203
令和3年	7,716	463	7,246
令和2年	7,770	468	7,300
令和元年	7,800	468	7,330
平成30年	7,870	468	7,400

※資料：内閣府沖縄総合事務局「沖縄農林水産統計年報」

農林水産省「作物統計調査：農林水産関係市町村別統計」

■令和4年 耕地面積圏域別比較表

単位: ha

圏域	市町村面積 (km ²)	耕地面積	耕地面積	
			田	畑
県計	2,282.2	36,300	787	35,500
北部	825.5 (36%)	6,740 (19%)	289 (37%)	6,457 (18%)
中部	283.4 (12%)	1,986 (5%)	28 (4%)	1,958 (6%)
南部	354.9 (16%)	8,318 (23%)	17 (2%)	8,301 (23%)
宮古	225.9 (10%)	11,588 (32%)	0	11,588 (33%)
八重山	592.5 (26%)	7,662 (21%)	452 (57%)	7,203 (20%)
石垣市	229.2 (39%)	5,270 (69%)	318 (70%)	4,950 (69%)
竹富町	334.4 (56%)	1,900 (25%)	85 (19%)	1,810 (25%)
与那国町	28.9 (5%)	492 (6%)	49 (11%)	443 (6%)

※資料: 農林水産省「作物統計調査: 令和4年農林水産関係市町村別統計」
国土地理院「令和4年全国都道府県市区町村別面積調(10月1日時点)」

(4) 経営耕地面積

各圏域の耕地面積規模毎に経営体数の割合を比較すると、当圏域は、2ha以上を有する経営体の割合が他の圏域よりも高く、石垣市では経営体の約5割、竹富町では約8割、与那国町では約4割に達し、経営する耕地面積が大きいのが特徴である。

■令和2年 経営耕地面積規模別経営体数

単位: 経営体

市区町村	計	経営耕地なし	1ha未満	1.0~2.0ha	2.0~3.0ha	3.0~5.0ha	5.0ha以上
県計	11,310	229	5,484	2,712	1,202	939	744
北部	3,016 (100%)	62 (2%)	1,831 (61%)	608 (20%)	213 (7%)	171 (6%)	131 (4%)
中部	743 (100%)	52 (7%)	538 (72%)	91 (12%)	26 (3%)	21 (3%)	13 (2%)
南部	2,893 (100%)	65 (2%)	1,908 (66%)	450 (16%)	145 (5%)	120 (4%)	203 (7%)
宮古	3,772 (100%)	38 (1%)	1,035 (27%)	1,381 (37%)	690 (18%)	435 (12%)	193 (5%)
八重山	886 (100%)	12 (1%)	169 (19%)	182 (21%)	127 (14%)	192 (22%)	204 (23%)
石垣市	627 (100%)	9 (1%)	119 (19%)	147 (23%)	83 (13%)	134 (21%)	135 (22%)
竹富町	151 (100%)	1 (1%)	12 (8%)	13 (9%)	28 (19%)	45 (30%)	52 (34%)
与那国町	108 (100%)	2 (2%)	38 (35%)	22 (20%)	16 (15%)	13 (12%)	17 (16%)

※資料: 2020年農林業センサス

(5) 沖縄県市町村別農業産出額

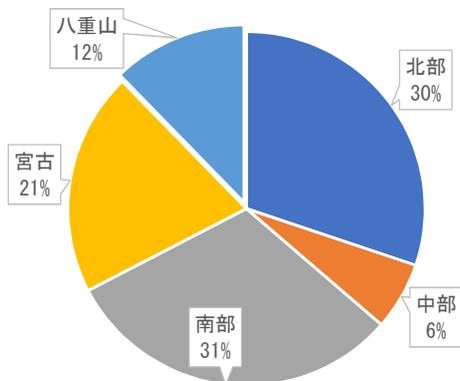
令和3年沖縄県市町村別農業産出額

単位: 1,000万円

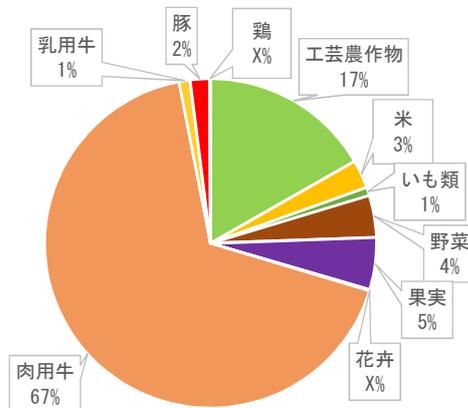
市町村	耕 種											畜 産					加 工 農産物	
	農業 産出額 ①+②+③	小 計 ①	米	豆 類	いも類	野 菜	果 実	花 き	工 芸 農作物	そ の 他 作 物	小 計 ②	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	そ の 他 畜産物		③
県 計	9,215	5,005	49	2	84	1,188	532	212	2,316	1	4,201	2,091	358	1,049	581	12	8	
北 部	2,781	1,430	18	0	20	300	302	139	357	1	1,349	456	48	392	379	8	4	
中 部	571	308	0	0	19	113	26	19	67	0	260	130	16	28	53	1	1	
南 部	2,854	1,553	0	1	29	589	73	53	567	0	1,302	264	282	608	135	2	0	
宮 古	1,880	1,370	0	1	7	140	74	1	1,139	0	507	492	0	0	14	1	3	
八重山	1,129	344	31	0	9	46	57	0	186	0	783	749	12	21	0	0	0	
石垣市	895	268	25	-	9	34	50	x	135	-	626	592	12	21	0	0	0	
竹富町	168	38	6	0	0	5	6	0	21	-	130	130	-	-	-	-	0	
与那国町	66	38	0	-	-	7	1	-	30	-	27	27	-	0	0	0	0	

※資料: 農林水産省「市町村別農業産出額」のデータを基に集計を行った。

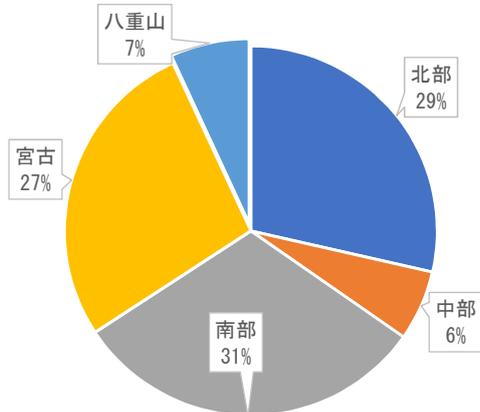
●グラフ1: 圏域別農業産出額比較表(割合)



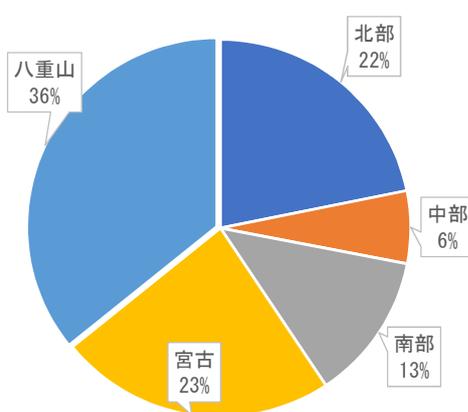
●グラフ2: 八重山圏域品目別農業産出額比較表(割合)



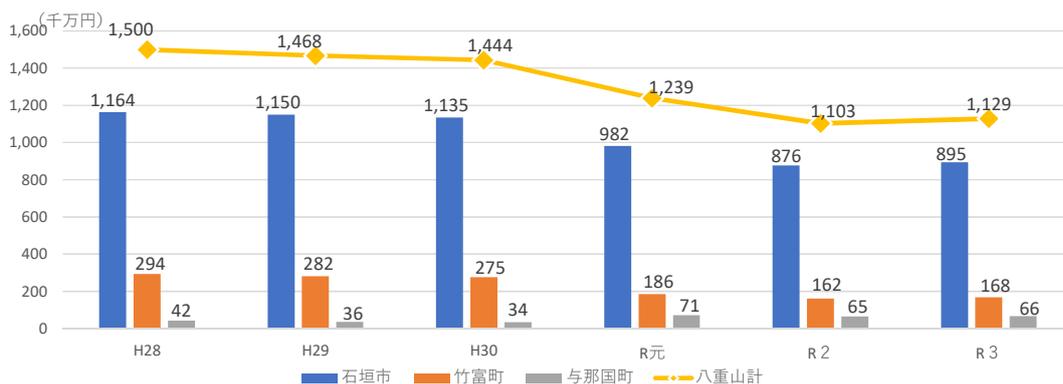
●グラフ3: 圏域別耕種産出額比較表(割合)



●グラフ4: 圏域別肉用牛産出額比較表(割合)



●グラフ5: 八重山圏域市町村別農業産出額の年別推移



2 農作物

(1) さとうきび

八重山圏域における令和4/5年期のさとうきび生産量は88,232トンで、前期に対して49,916トンの減少となった。県全体に占める生産量の割合は12.0%であり、前年より4.9%減少した。収穫面積は1,938haと前期より184ha減少し、10a当たりの収量は4,552kgと前期より1,958kg減少した。

作型別では、八重山地域全体の生産量に占める夏植の割合は43.2%（前期44.0%）、春植6.5%（前期9.5%）、株出50.3%（前期46.5%）であり、株出の割合が5割以上を占めている。土壌害虫等に対して効果的な防除農薬の普及と、株出し管理技術の定着により安定した株出栽培が可能となったことで株出の割合が増加傾向にある。

さとうきび原料の工場買入れ価格は、平成6年度から甘蔗糖度を基準とした品質取引へと移行された。八重山地域の平均甘蔗糖度は、分みつ糖が13.1度、含みつ糖14.0度で、平均が13.3度となり、前年の14.4度より低くなった。八重山地域の農家手取額はトン当たり22,364円となり、前期の23,414円より減額となった。

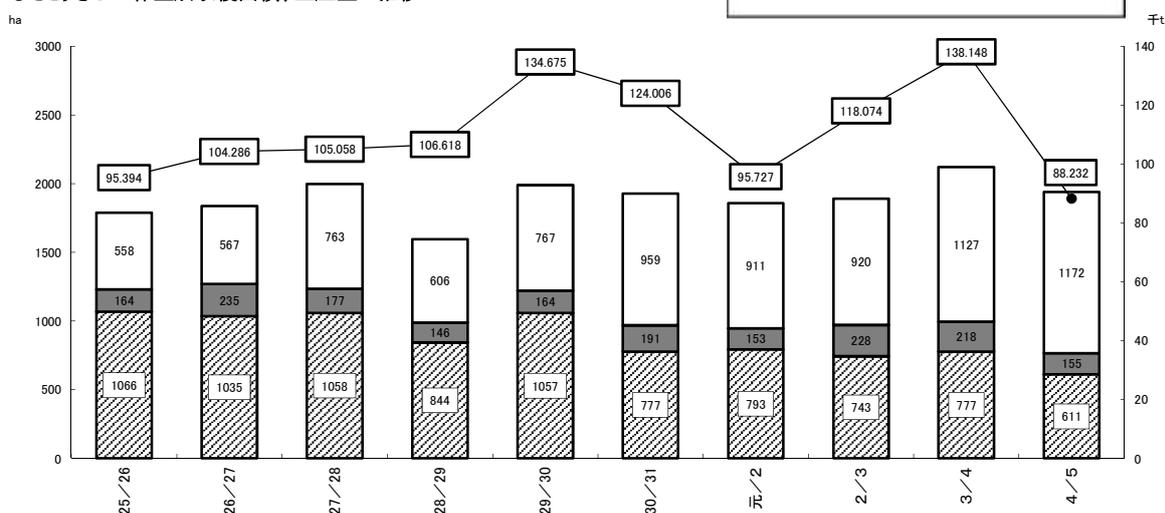
○令和4/5年期 さとうきび作型別生産実績

工場名	夏植			春植			株出			合計			前期(R3/4)合計		
	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)
県計	3,039 (22.2)	7,181	218,212 (29.6)	1,164 (8.5)	4,585	53,364 (7.2)	9,477 (69.3)	4,916	465,863 (63.2)	13,679 (100.0)	5,391	737,439 (100.0)	13,791 (100.0)	5,913	815,426 (100.0)
沖縄本島	185 (7.7)	7,016	12,998 (11.0)	296 (12.3)	4,578	13,538 (11.5)	1,930 (80.0)	4,731	91,317 (77.5)	2,411 (17.6)	4,887	117,854 (16.0)	2,459 (17.8)	4,953	121,822 (14.9)
石垣島製糖	391 (28.0)	6,619	25,866 (40.1)	146 (10.5)	3,752	5,490 (8.5)	857 (61.5)	3,875	33,190 (51.4)	1,394 (10.2)	4,631	64,546 (8.8)	1,506 (10.9)	6,608	99,530 (12.2)
JA小浜製糖工場	27 (34.6)	5,490	1,460 (48.3)	3 (3.8)	2,507	74 (2.4)	48 (61.5)	3,104	1,490 (49.3)	78 (0.6)	3,900	3,024 (0.4)	77 (0.6)	6,284	4,856 (0.6)
西表糖業	58 (33.0)	6,887	3,991 (44.4)	6 (3.4)	3,181	177 (2.0)	112 (63.6)	4,302	4,826 (53.7)	176 (1.3)	5,119	8,994 (1.2)	200 (1.5)	7,271	14,567 (1.8)
波照間製糖	106 (56.1)	5,295	5,601 (68.8)	-	-	-	83 (43.9)	3,060	2,543 (31.2)	189 (1.4)	4,312	8,144 (1.1)	233 (1.7)	5,625	13,132 (1.6)
JA与那国製糖工場	30 (29.4)	4,079	1,228 (34.9)	-	-	-	72 (70.6)	3,177	2,295 (65.1)	102 (0.7)	3,442	3,523 (0.5)	105 (0.8)	5,780	6,063 (0.7)
八重山計	611 (31.5)	6,241	38,146 (43.2)	155 (8.0)	3,707	5,741 (6.5)	1,172 (60.5)	3,784	44,345 (50.3)	1,938 (14.2)	4,552	88,232 (12.0)	2,122 (15.4)	6,510	138,148 (16.9)

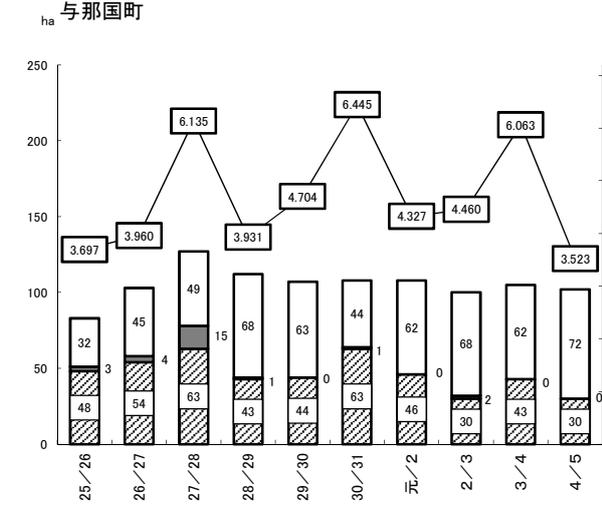
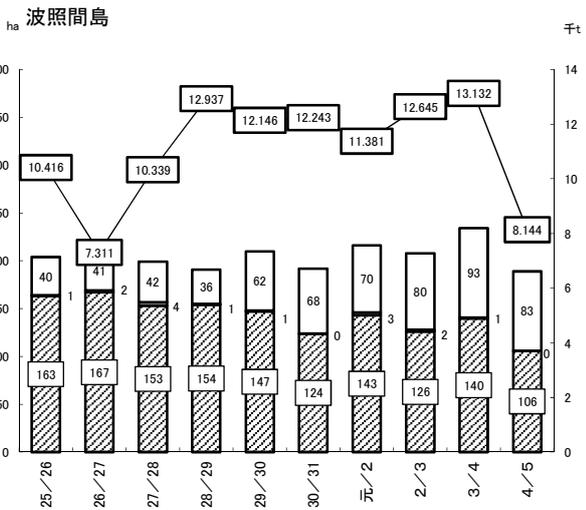
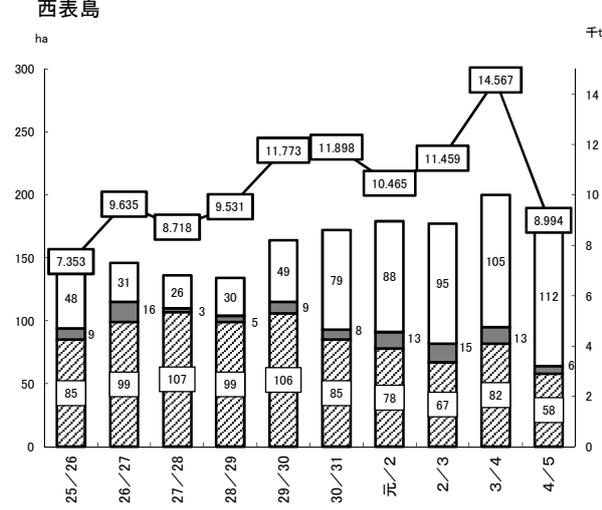
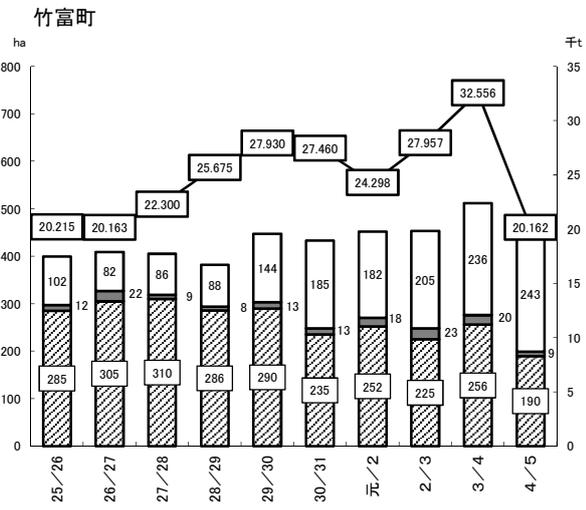
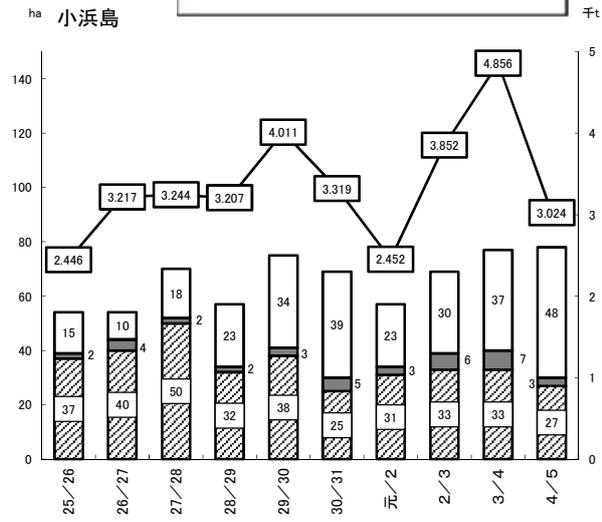
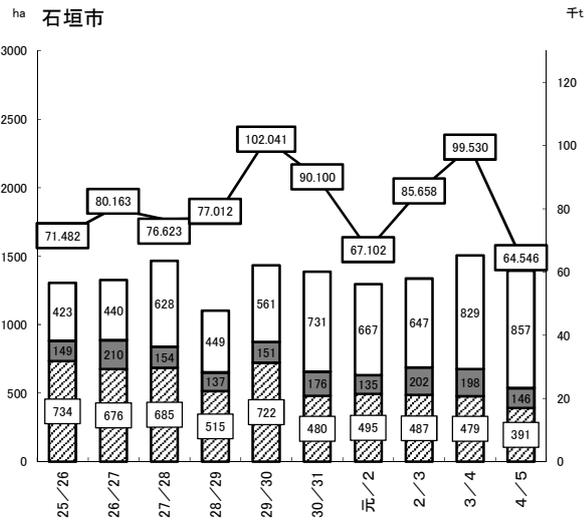
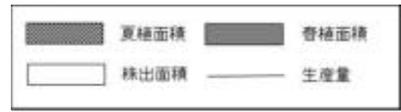
資料:「さとうきび及びびん糖生産実績」 沖縄県農林水産部 令和5年8月

注: (斜体)は、作型別では各地域内に対するもので、合計では県計の比率である。四捨五入による端数調整のため合計と内訳が合わない場合がある。

○さとうきびの作型別収穫面積、生産量の推移



○地域別の推移



資料:「さとくまび及びび甘しや糖生産実績」 沖縄県農林水産部 令和5年8月

○令和4/5年 製糖実績

単位: t

工場名	製糖期間			製糖実績			前期(R3/4)実績		
	製糖開始	製糖終了	製糖日数	原料処理量	歩留(%)	産糖量	原料処理量	歩留(%)	産糖量
県計	—	—	—	737,439	11.35	83,683	815,426	11.66	95,072
石垣島製糖	R5.12.6	R6.4.14	130	64,546	10.28	6,634	99,530	11.04	10,991
JA小浜製糖工場	R5.1.10	R5.3.27	76	3,024	9.74	295	4,856	7.50	364
西表糖業	R5.12.3	R6.4.6	118	8,994	12.46	1,121	14,567	9.56	1,392
波照間製糖	R5.12.6	R6.3.11	87	8,144	14.10	1,149	13,132	10.94	1,437
JA与那国製糖工場	R5.12.8	R6.3.8	84	3,523	8.88	313	6,063	9.28	563
八重山計	—	—	—	88,231	11.09	9,512	138,148	9.66	14,747

資料:「さとうきび及び甘しや糖生産実績」沖縄県農林水産部 令和5年8月

○令和4/5年 さとうきび品質取引実績

工場名	甘蔗糖度(度)			甘蔗糖度区分ごとの重量、比率(t, %)							
				13.0度以下		13.1~13.6		13.7~14.3		14.4度以上	
	平均	最低	最高	重量	比率	重量	比率	重量	比率	重量	比率
県計	13.8	7.2	19.5	226,071	30.7	118,018	16.0	140,362	19.0	252,988	34.3
石垣島製糖	13.1	8.3	17.5	32,124	49.8	11,451	17.7	10,589	16.4	10,382	16.1
JA小浜製糖工場	13.4	9.4	17.2	1,192	39.4	673	22.3	548	18.1	611	20.2
西表糖業	14.2	10.5	17.9	1,543	17.2	1,222	13.6	2,007	22.3	4,222	46.9
波照間製糖	14.9	12.8	18.2	62	0.8	882	10.8	1,326	16.3	5,874	72.1
JA与那国製糖工場	11.8	7.2	15.0	2,945	83.6	333	9.4	192	5.4	54	1.5
八重山計	13.3	7.2	18.2	37,866	42.9	14,561	16.5	14,662	16.6	21,143	24.0

資料:「さとうきび及び甘しや糖生産実績」沖縄県農林水産部 令和5年8月

※比率については、四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

○さとうきび平均農家手取額の推移(円/トン)

年 期	分みつ糖(石垣市)			含みつ糖(与那国町)
	計	甘味資源作物交付金※	含みつ糖(竹富町)	
29/30	21,953	16,420	20,337	20,738
30/31	22,097	16,630	22,164	20,993
元/2	22,617	16,730	25,048	20,817
2/3	22,771	16,860	22,412	21,131
3/4	23,115	16,860	—	21,628
4/5	22,760	16,860	—	21,145

※基準糖度帯(13.1~14.3度)の単価

資料:「さとうきび及び甘しや糖生産実績」「糖業年報」
沖縄県農林水産部 令和5年8月

八重山地域製糖工場分布図(令和6年1月現在)



(2) 水稻

八重山地域は、県内稲作の主要産地である。令和4年の水稻作付面積は一期、二期合わせて411haと県全体の64.3%を占め、収穫量は1,189トンと県全体の61.9%を占めている。

一期作の10a当たり収量は337kgで、県平均の343kgよりやや低い。二期作は9月上旬までの植え付けのため台風被害を受ける可能性が高く、収量・歩留まりが低い等の理由により、近年では一期作の3割程度の作付となっている。

温暖な気候を活かし、一期作は6月に新米を出荷できる「超早場米」として、他の産地より有利販売が可能である。主要品種は食味に優れた「ひとめぼれ」が生産されており、西表地区では平成26年二期作より、低アミロース品種である「ミルキーサマー」の栽培に取り組んでおり、ブランド化が期待される。消費者の食の安全性への関心の高まりもあり、エコファーマー認定、特別栽培農産物の認証を受けるなど、多様な消費者ニーズに対応した米作りが行われている。



田植前の風景



主要品種:ひとめぼれ

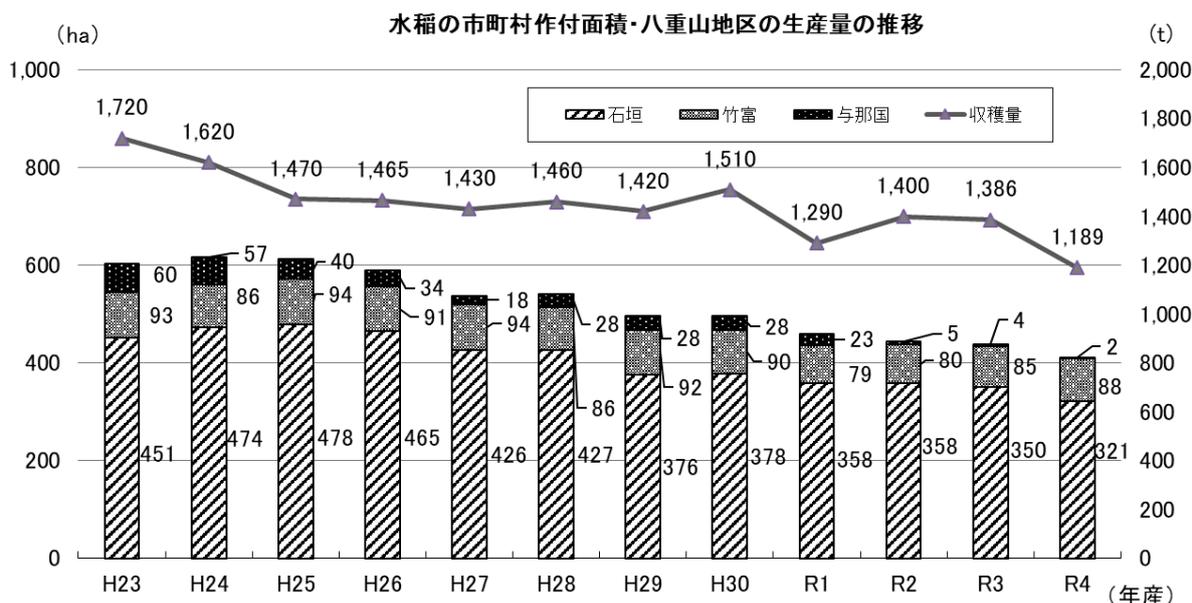
○令和4年産水稻の生産実績

	作付面積(ha)			10aあたり収量(kg)			収穫量(t)		
	計	1期作	2期作	平均	1期作	2期作	計	1期作	2期作
県計	639	471	168	301	343	184	1,920	1,620	309
石垣市	321	253	68	300	349	119	964	883	81
竹富町	88	68	20	248	297	85	219	201	17
与那国町	2	2		273	273		6	6	
八重山計	411 (64.3)	323 (68.6)	88 (52.4)	821	919	201	1,189 (61.9)	1,090 (67.3)	98 (31.7)

資料: 第51次沖縄農林水産統計年報

注: 斜体は県計に占める割合

○水稻の作付面積と生産量の推移



資料: 第51次沖縄農林水産統計年報

(3) 野菜

八重山地域の野菜生産は、平成5年のウリミバエ根絶を契機に、温暖な気候特性を活かした冬春季の県外市場への端境期出荷を中心に進展してきた。近年はオクラ、かぼちゃ、ゴーヤー、さやいんげん等が県外へ出荷されており、令和4年度のJAおきなわ八重山地区営農振興センターの上記4品目の出荷実績は約173t、131,744千円となっている。また個人出荷ではピーマンやきゅうりの出荷も増加している。平成18年に石垣市のオクラが、平成26年に竹富町のかぼちゃが拠点産地に認定され、生産部会と産地協議会を中心に、生産性向上と八重山ブランドの確立に向けて取り組んでいる。

また平成23年にはJAファーマーズマーケット「ゆらていく市場」が開設され、より新鮮で多様な野菜の地域内への供給が可能になった。令和4年度の野菜類の委託販売額は170,076千円で県外出荷額を上回り、キュウリ、ゴーヤー、トマト類、ナス、ピーマン、ラッキョウ、オクラ等を中心に、多種多様な品目が販売され、産地消費の推進と地域経済の活性化に大きく寄与している。

令和4年産主要出荷品目の栽培面積と県外出荷量

品目	かぼちゃ			ゴーヤー	さやいんげん
	オクラ	石垣市	竹富町		
産地	石垣市	石垣市	竹富町	石垣市	石垣市
栽培面積(ha)	11.5	6.5	9.7	2.3	0.4
出荷量(t)	55.1	48.7	74.6	28.5	2.8

※JAおきなわ八重山地区営農振興センター取扱量(令和4年4月～令和5年3月。但しかぼちゃは令和5年1月～5月)



オクラ



かぼちゃ



ゴーヤー



さやいんげん

(4) 果樹

主要品目のマンゴーは、近年リース事業の導入等で栽培面積が増加しており、令和3年では結果樹面積32ha、収穫量257tとなっている。その多くが個撰個販で、樹上完熟させた高品質の果実を宅配便等を利用して消費者に直接届けている。平成20年に発足した八重山マンゴー研究会では、技術向上のための勉強会や現地視察が定期的に行われ、収量や品質が向上している。平成25年にはJAマンゴー部会も設立され、全員がエコファーマー認定を受けるなど独自の取組を進めている。他にもバナナ、パパイヤ、ドラゴンフルーツ(ピタヤ)、パッションフルーツといった多様な熱帯果樹が栽培されている。



マンゴー栽培状況

八重山圏域主要果樹(パイナップルを除く)の生産の推移

単位: ha、t

	バナナ			パパイヤ			マンゴー		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成29年	6	40	40	1	6	6	27	216	216
平成30年	6	38	38	1	5	5	26	153	153
令和元年	6	41	41	1	6	6	31	180	179
令和2年	6	41	41	1	6	6	28	196	196
令和3年	1	51	51	1	22	22	32	257	257

	ドラゴンフルーツ			パッションフルーツ		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成29年	2	29	29	3	11	11
平成30年	2	29	29	3	10	10
令和元年	2	29	29	3	11	11
令和2年	2	29	29	3	11	11
令和3年	0	5	5	0	9	9

資料:「沖縄県の園芸・流通」 沖縄県農林水産部 令和5年1月(令和3年については速報値)

(5) パインアップル

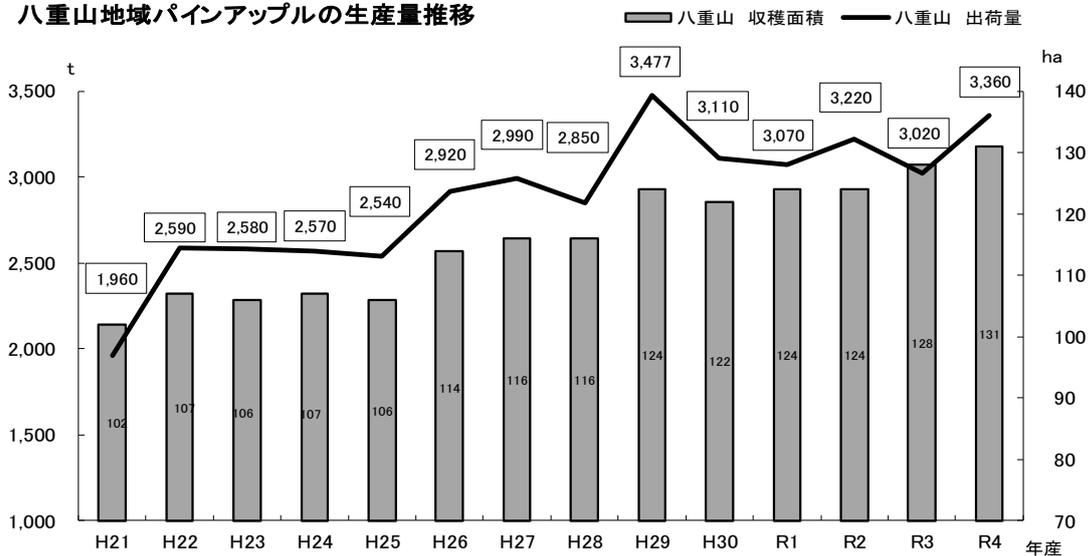
八重山産（主に石垣島、西表島）パインアップルは加工場の閉鎖により一時衰退傾向であった。しかしながら、近年は生食用パインアップルの需要の増加に合わせ、栽培面積、出荷量ともに増加し、平成29年以降は3千トンを上回った生産が続いている。県内生産に占める八重山産の割合は、収穫面積で41.9%、出荷量で46.2%であり、その大半が生食向けである。栽培品種はボゴール、ソフトタッチ（ピーチパイン）、ハワイ種（N67-10等）が主であるが、品種の育成も進み、ジュリオスター、ゴールドバレル、沖農P17（商標名：サンドルチェ）、沖農P19（商標名：ホワイトココ）といった新品种の種苗が徐々に供給され、品種構成が多様化している。

令和4年産パインアップル生産状況

	収穫面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	出荷量(t)		
				計	生食向け	加工向け
県計	313	2,370	7,420	7,270	5,020	2,250
沖縄本島	180	2,190	3,940	3,880	1,790	2,090
八重山	131 (41.9)	2,640	3,460 (46.6)	3,360 (46.2)	3,200 (63.7)	162 (7.2)

注：(斜体)は県計に占める割合

八重山地域パインアップルの生産量推移



資料：「沖縄県のパインアップルの栽培面積・収穫面積・10a当たり収量・収穫量・出荷量の推移」農林水産省

パインアップル主要品種の特徴

<p>N67-10 (ハワイ種、ジュロニーパイン)</p>  <p>【収穫時期】5月～8月 【果実重】約1,500g 【果形】たん型 【果肉色】黄白色 【果汁品質】自然果実、食味 糖度は16度、酸度は0.7% 甘酸っぱい食味で、果汁が豊富</p> <p>【栽培特性】 病害発生が早いので、2回収穫が難しい。高温期の仕度調整が効果的でない。</p> <p>【その他】 加工生食用。沖縄県の主要栽培品種。</p>	<p>ボゴール (ボコットパイン)</p>  <p>【収穫時期】5月～7月 【果実重】約1,000g 【果形】たん型 【果肉色】黄白色 【果汁品質】自然果実、食味 糖度は20度、酸度は0.6% 果汁は少ないが、糖度が高く、甘みを感じさせる。</p> <p>【栽培特性】 病害発生が早いので、種村苗の確保や2回収穫が容易。寒冷や雹害に強い。</p> <p>【その他】 石垣島の主要栽培品種。小果実が特徴。</p>	<p>ソフトタッチ (ピーチパイン)</p>  <p>【収穫時期】5月～7月 【果実重】約800g 【果形】たん型 【果肉色】黄白色 【果汁品質】自然果実、食味 糖度は19度、酸度は0.7% 刺のような独特の香りがあり、さわやかな食味が特徴。</p> <p>【栽培特性】 病害発生が早いので、種村苗の確保や2回収穫が容易。芯腐れ症状が発生しやすい。</p> <p>【その他】 西表島の主要栽培品種。小果実が特徴。</p>
<p>ゴールドバレル</p>  <p>【収穫時期】5月～7月 【果実重】約1,400g 【果形】円筒形 【果肉色】黄白色 【果汁品質】自然果実、食味 糖度は15度、酸度は0.9% 糖酸比が高く、果肉も柔らかい。</p> <p>【栽培特性】 種村苗確保が難しく、生育も遅いため、栽培が難しい。2回収穫も難しい。</p> <p>【その他】 果実パインで最も高糖度で販売されている品種。</p>	<p>沖農P17 (サンドルチェ)</p>  <p>【収穫時期】10月～11月 【果実重】約1,000g 【果形】たん型～円筒形 【果肉色】黄白色 【果汁品質】自然果実、食味 糖度は18度、酸度は0.6% 糖酸比で食味が良いのが特徴。</p> <p>【栽培特性】 種村苗確保が容易で、生育旺盛のため栽培しやすい。芯腐れ症状が発生しやすい。</p> <p>【その他】 従来果実および自然果実での果実障害発生が少ない。</p>	<p>沖農P19 (ホワイトココ)</p>  <p>【収穫時期】10月～11月 【果実重】約1,300g 【果形】たん型 【果肉色】白色 【果汁品質】自然果実、食味 糖度は18度、酸度は0.4% ココナッツのような香りで、果肉も柔らかく、非常に美味。</p> <p>【栽培特性】 種村苗確保が容易で、生育旺盛のため栽培しやすい。2回収穫でも大果となる。</p> <p>【その他】 令和3年に品種登録された新品种。令和4年に品種登録された新品种。</p>

*図内の名称は各品種の商標名や愛称を示す。

資料提供：農業研究センター石垣支所

(6) 花き

八重山地域の花き生産は、温暖な気候を活かし、レッドジンジャー、ヘリコニア、洋ラン、切葉類等の夏季県外出荷品目を中心に取り組まれている。令和3年の花き栽培面積は5.7haで、切り花類の出荷数量が48.3万本であり、出荷数量は前年よりも減少した。

石垣市はヘリコニア、レッドジンジャーの県内有数の産地であり、平成19年に拠点産地に認定された。品質の高さは市場からも高い評価を得ている。洋ランは、デンファレを中心とした施設栽培が行われており、島内外からの需要も高い。

また、石垣市花き産地協議会主催のもとフラワーアレンジメント教室の開催やフラワーコーポンの販売、各種イベントでの島産花材の利用等を行うことによって島内産花きのPRを行っている。

八重山地域花き類生産実績の推移

単位：a、千本、千円

種類名	H29年度			H30年度			R1年度			R2年度			R3年度		
	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額
デンファレ	2	38	1,919	95	46	2,162	125	17	1,700	125	16	1,550	0	0	0
洋ラン類小計	2	38	1,919	95	46	2,162	125	17	1,700	125	16	1,550	0	0	0
ストレリチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘリコニア	447	883	25,879	447	852	25,756	194	297	9,263	206	252	7,099	160	64	1,888
レッドジンジャー類	387	325	22,708	387	311	21,535	465	160	15,853	440	124	13,553	285	220	14,944
ウイキョウ	26	32	1,657	26	30	1,567	47	27	1,731	47	24	1,500	15	1	400
一年草・多年草小計	860	1,240	50,244	860	1,193	48,858	706	484	26,947	693	400	22,152	460	285	17,232
アレカヤシ	40	23	81	40	22	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドラセナ類	132	185	7,414	132	176	7,211	111	129	5,894	182	123	5,884	110	198	15,180
タニワタリ	12	9	151	12	9	154	7	9	405	7	8	351	0	0	0
オクラレルカ	1	1	20	1	1	20	0	1	12	0	1	12	0	0	0
糸芭蕉	26	5	167	26	5	164	5	2	167	5	2	167	0	0	0
その他葉もの	62	51	933	62	53	961	105	66	3,657	80	51	2,568	0	0	0
葉もの小計	273	274	8,766	273	266	8,585	228	207	10,135	274	185	8,982	110	198	15,180
クルクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アマゾンリリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
球根切花類小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他切花類小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①切花類計	1,135	1,552	60,929	1,228	1,505	59,605	1,059	708	38,682	1,092	601	32,684	570	483	32,412
②鉢物類計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(①+②)	1,135	1,552	60,929	1,228	1,505	59,605	1,059	708	38,682	1,092	601	32,684	570	483	32,412

資料：「沖縄県の園芸・流通」 沖縄県農林水産部 令和6年1月



ヘリコニア栽培状況



レッドジンジャー栽培状況



(7) 葉たばこ

八重山（石垣市）の令和5年産葉たばこの収穫量は59tとなっており、前年61tと比較して3%（2t）の減少となっており、生産額も103,226千円で前年の114,901千円と比較して10%（11,675千円）減少している。

過去直近3年（令和2～4年度）平均との比較は、収穫量は約38%（36t）減、生産額も約43%（78,552千円）の減少となっている。



葉たばこ栽培状況（石垣市）

令和5年度葉たばこの生産状況

地域別	項目	栽培農家数 (人)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	10a当たり 収量(kg)	1kg当たり 平均価格(円)	生産額 (千円)
県	計	(100.0%) 131	(100.0%) 500	(100.0%) 930	186	1,849	(100.0%) 1,719,830
八重山 (石垣市)		(7.6%) 10	(6.0%) 30	(6.3%) 59	197	1,759	(6.0%) 103,226
宮古島市		(50.4%) 66	(52.6%) 263	(45.3%) 422	161	1,831	(44.9%) 772,370
多良間村		(5.3%) 7	(2.9%) 15	(2.7%) 25	171	1,894	(2.8%) 47,547
本島 (伊江島・久米島含む)		(36.6%) 48	(38.5%) 193	(45.6%) 425	221	1,876	(46.3%) 796,688

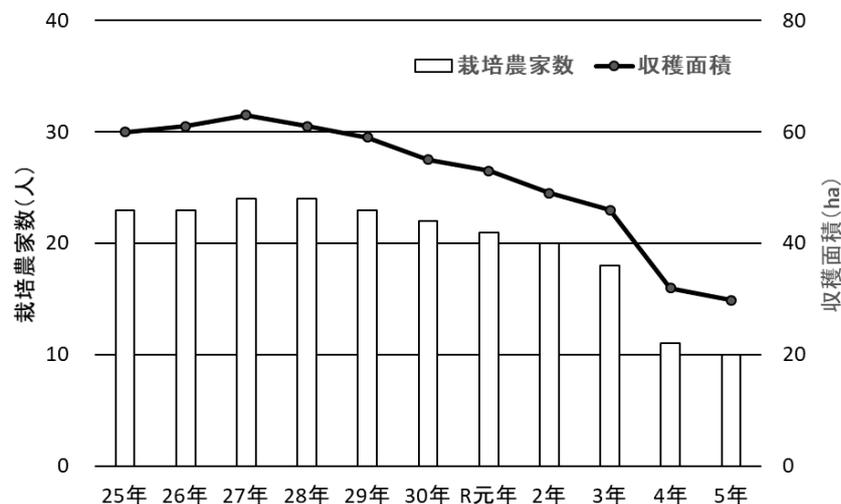
資料：沖縄県糖業農産課

葉たばこの生産状況の推移(石垣市)

年次	項目	栽培農家数 (人)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	10a当たり 収量(kg)	1kg当たり 平均価格(円)	生産額 (千円)
25年		23	60	120	199	2,090	250,851
26年		23	61	132	218	1,991	263,719
27年		24	63	91	146	2,137	195,361
28年		24	61	121	198	2,003	241,726
29年		23	59	133	244	1,824	242,001
30年		22	55	135	244	1,702	229,450
R元年		21	53	120	224	1,952	233,286
2年		20	49	98	201	2,102	205,365
3年		18	46	123	270	1,824	225,066
4年		11	32	61	190	1,887	114,901
5年		10	30	59	197	1,759	103,226

資料：沖縄県糖業農産課

葉たばこ農家数及び収穫面積の推移(石垣市)



(8)かんしょ

石垣市では、平成19年に石垣市甘しょ産地協議会が発足し、石垣島甘しょ生産組合を中心に生産者の組織強化や品種の選定などが取り組まれた。平成29年3月に生産組合が石垣市甘しょ生産組合として再結成され、同年5月に石垣市は県奨励品種の紅イモ「沖夢紫」等のかんしょを対象品目とした拠点産地に認定された。平成29年8月に民間企業の新加工施設が整備され現在まで生産が拡大していた。しかしながら、新型コロナウイルスの影響による観光客の減少に伴い、加工品販売が激減した。そのため作付面積が調整されたが、観光需要の増加によって生産面積は増加に転じている。令和4年度は栽培面積9.7ha(対前年比121%)、収穫量54t(対前年比84%)となった。単収は0.6t/10aとなった。今後は改めて生産拡大が見込まれる。



かんしょ「沖夢紫」の栽培状況とかんしょの選果機

石垣市かんしょ生産実績の推移

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
栽培面積 (ha)	12.0	17.5	27.9	32.3	8.0	9.7
生産量 (t)	121	199	306	402	64	54
単収 (t/10a)	1.0	1.1	1.1	1.2	0.8	0.6

資料:石垣市農政経済課

(9) ボタンボウフウ(長命草)

日本の最西端に位置する与那国島では、古くから祭事の供え物として用いられてきたボタンボウフウ(長命草)を平成16年から9戸の農家で経済栽培を開始し、平成18年3月には薬用作物部門で拠点産地認定を受けた。

平成20年に農業生産法人が設立された後、平成22年には与那国島長命草生産組合が結成されたことに加え、栽培から乾燥作業までの工程を島内で行う生産加工体制が整ったことにより、生産量も拠点産地認定後から約6倍(平成18年度生産量を基準)まで増加し、ボタンボウフウの一大産地となっている。

なお、農業生産法人と農家間の契約栽培は終了し、令和3年度以降は農業生産法人による自社生産へと転換している。



ボタンボウフウの栽培状況

与那国町ボタンボウフウ生産実績の推移

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
生産農家戸数(戸)	60	60	60	25	1	1
栽培面積 (ha)	22	22	22	7	2.2	2.5
生葉生産量 (t)	373	370	350	160	14	17.5

資料:与那国町役場産業振興課

3 畜 産

- (1) 当地域の畜産は、恵まれた亜熱帯気候と広大な草地面積の確保により、農業算出額の約60%を占める基幹産業として順調に発展している。
特に肉用牛は国内外からの旺盛な食肉需要を反映し、産出額が堅調に推移している。石垣牛は観光客への人気も高く、平成20年にはJ Aおきなわの「石垣牛」が、特許庁より地域団体商標(地域ブランド)を取得しており、令和4年のJ A石垣牛販売実績は765頭、約9億円であった。
令和5年3月にタイ王国に約1,00kgの「石垣牛」が出荷されたが、牛肉の海外輸出は県内食肉処理業者としては初めてのことである。
八重山食肉センターでは、石垣島で生産された牛肉を輸出するため、食品衛生の国際基準H A C C Pの認証やタイとマカオに向けた「輸出食肉処理場」の認定を受けるなど平成30年から準備を進めてきており、今回の海外輸出を機に、さらなる販路拡大に向けた肥育牛の増頭や石垣牛ブランド力の向上が期待されている。
- (2) 令和4年の沖縄県の農業産出額は890億円となっており、うち畜産部門は412億円で約46%を占めている。畜産部門は前年に比べ8億円減少しており、特に肉用牛における子牛価格の低迷が影響している。畜産部門の構成比は、肉用牛47% (192億円)、豚29% (120億円)、その他畜産24% (100億円) となっている。
- (3) 肉用牛の流通面においては、指定市場の八重山家畜市場(石垣市)と黒島家畜市場(竹富町黒島)の2市場で生体取引が行われ、取引される子牛は九州地方を中心に県外へと移出されている。令和4年度の取引実績は八重山家畜市場が8,236頭、黒島家畜市場が913頭であった。八重山地域で生産される牛は、粗飼料の利用性や発育性に優れ、今日の和牛に求められている高い産肉能力と良好な肉質を兼ね備えた肥育素牛として高く評価されている。
- (4) 当地域には多くの未利用地・低利用地があったことから、昭和51年から大型畜産基地建設事業が実施され大規模な草地基盤の整備が図られてきた。平成5年度から21年度まで畜産基盤再編総合整備事業(旧公社営畜産基地建設事業)を実施した。
また、平成25年度から28年度まで畜産担い手育成総合整備事業の「やいま地区(石垣市)」において新たに100頭規模の肥育牛舎等を整備した。さらに竹富町において、平成29年度から「サミン地区」、平成30年度から「美ら島地区」が事業開始し、令和4年度に事業完了している。現在、令和4年度から「石垣北部地区(石垣市)」が開始され、4年計画で整備する。
- (5) 家畜防疫衛生については、管内では法定伝染病である牛バベシア病を媒介するオウシマダニが過去、広域に生息しており、肉用牛振興の大きな生産阻害要因となっていた。そのため昭和46年以降、国庫補助による沖縄牧野ダニ撲滅対策事業等の長期かつ大規模な防除対策が展開され、平成8年には悲願であったオウシマダニの完全撲滅が達成された。その成果として、肉用牛の飼養頭数は右肩上がりに増頭に転じ、県内一の肥育素牛供給産地となった。
また、令和2年1月、本島中部にて県内33年ぶりとなる豚熱が発生し、令和4年12月には、本島北部にて県内で初めてとなる高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。豚熱については、続発により7例の発生と関連施設10農場で防疫措置が実施され、12,381頭が殺処分される事態となった。特定家畜伝染病である口蹄疫や豚熱・アフリカ豚熱は、近隣諸国で散発的な発生が確認されており、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大を受け寄港が停止していたこれらの発生国からのクルーズ船や定期便、チャーター便の再開にあたっては家畜伝染病の侵入リスクが高まることから、引き続き初動対応も含めた危機管理体制を強化する。
- (6) 豚熱ワクチン未接種地域の離島においては、本島からの豚導入が不可能となり、県外からの導入コストが課題となっていたが、令和5年8月の佐賀県での豚熱発生を受け、令和6年2月より本県離島地域においても豚熱ワクチン接種が開始されており、豚熱予防と種豚流通対策の強化が期待される。
- (7) 沖縄県畜産振興対策事業(乳業施設高度化整備事業)によって整備された石垣市生乳処理加工施設(愛称:石垣市みるくセンター)が令和4年8月より本格稼働した。
当施設は、八重山地域に安心・安全な牛乳・乳製品及び学校給食用牛乳の安定供給を図ることを目的に整備され、生乳生産業者及び乳製品製造業者の4社で構成される石垣島乳業協業組合が協同利用している。
- (8) 八重山地区での令和4年度の県種雄牛人工授精用凍結精液の払い下げ本数は、2,793本で多くの八重山地域の子牛の種牛として使用されている。今後も県種雄牛の凍結精液を使った優良な子牛、枝肉の生産が期待される。

今後期待される県種雄牛(畜産研究センター)



名号「美百合」(父:百合白清2)
沖縄県の現場後代検定歴代最高成績を樹立(平均
BMSNo.10.1)
気高系統



名号「百合安清」(父:百合白清2)
質量兼備で脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯、脂肪の質が優
秀
気高系統



名号「白鶴波」(父:福福波)
「福福波」の後継牛でゲノム育種価が優れており、次世代の
本県を代表する種雄牛として期待される。
糸桜系統



名号「幸紀照重」(竹富島産・父:幸紀雄)
推定育種価の脂肪交雑でH評価、資質に優れた種雄牛
気高系統



名号「茂北福」(父:北福波)
高いゲノム育種価と現場検定成績
糸桜系統



名号「福福波」(父:北福波)
良好な枝肉成績
糸桜系統

令和4年末 主要家畜の飼養状況

単位:戸、頭、羽

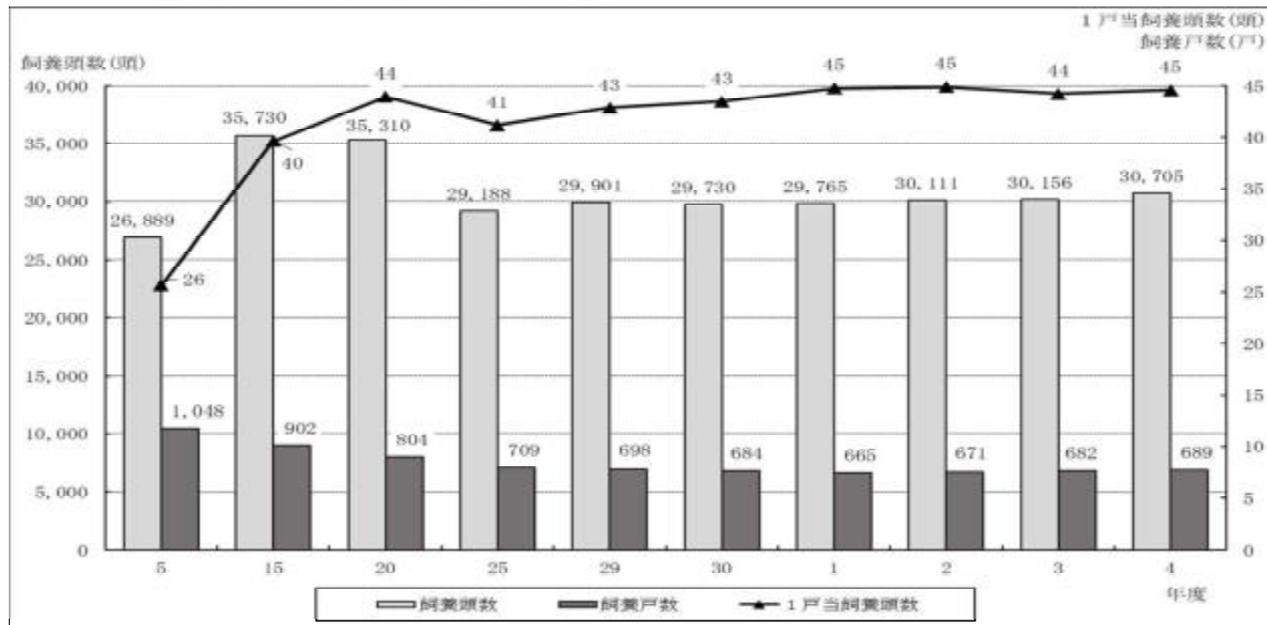
項目 地域別	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山 羊		みつばち	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数
県 計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2,225	73,298	59	3,773	226	193,433	285	1,257,615	20	649,534	103	587	1,129	9,964	935	25,459
八重山計	31.0%	41.9%	11.9%	5.2%	6.6%	0.6%	15.4%	2.4%	5.0%	0.1%	48.5%	52.3%	18.9%	20.2%	5.1%	2.6%
	689	30,705	7	195	15	1,195	44	30,249	1	800	50	307	213	2,017	48	660
石垣市	515	23,984	6	194	12	1,165	13	29,715	1	800	22	104	110	1,296	39	597
竹富町	138	5,883	1	1	2	22	26	259	0	0	14	22	83	613	7	54
与那国町	36	838	0	0	1	8	5	275	0	0	14	181	20	108	2	9
宮 古	29.7%	17.4%	1.7%	0.1%	5.8%	0.4%	3.2%	2.5%	5.0%	0.0%	5.8%	9.7%	16.2%	16.3%	6.3%	3.3%
	660	12,738	1	2	13	763	9	31,610	1	100	6	57	183	1,623	59	852
本島	25.9%	22.6%	74.6%	79.9%	51.3%	45.8%	46.3%	62.6%	10.0%	0.5%	20.4%	21.0%	29.6%	32.8%	42.4%	33.4%
	577	16,579	44	3,016	116	88,533	132	786,819	2	3,010	21	123	334	3,270	396	8,497
北 部	13.4%	18.1%	11.9%	14.8%	36.3%	53.2%	35.1%	32.5%	80.0%	99.4%	25.2%	17.0%	35.3%	30.7%	46.2%	60.7%
	299	13,276	7	560	82	102,942	100	408,937	16	645,624	26	100	399	3,054	432	15,450

八重山圏域における主要家畜の飼養頭羽数の推移

単位:戸、頭、羽

項目 年度	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山 羊		みつばち	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数
平成10年度	961	36,140	4	376	18	6,395	45	59,128	-	-	74	391	162	1,177	-	-
平成20年度	804	35,310	7	218	12	3,532	48	55,089	1	800	54	353	118	822	4	35
平成30年度	684	29,730	7	230	16	5,197	43	41,645	3	2,215	52	287	220	1,920	32	371
令和2年度	671	30,111	6	201	24	1,193	45	36,380	2	1,300	52	321	204	2,112	50	613
令和3年度	682	30,156	5	185	16	1,064	61	30,236	2	900	52	349	206	1,966	57	835
令和4年度	689	30,705	7	195	15	1,195	44	30,249	1	800	50	307	213	2,017	48	660

八重山圏域における肉用牛飼養頭数の推移



肉用牛飼養規模別農家数(令和4年末)

区分 市町名	1頭		2～9頭		10～19頭		20～29頭		30～39頭	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	2	2	100	593	110	1,620	91	2,193	55	1,917
竹富町	1	1	19	105	19	273	31	786	21	722
与那国町	2	2	15	80	7	100	5	130	3	94
合計	5	5	134	778	136	1,993	127	3,109	79	2,733

区分 市町名	40～49頭		50～99頭		100頭以上		計	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	26	1,167	84	5,749	47	10,701	515	23,942
竹富町	9	412	27	1,809	11	1,775	138	5,883
与那国町	2	90	1	84	1	258	36	838
合計	37	1,669	112	7,642	59	12,734	689	30,663

(肥育用乳用種以外)

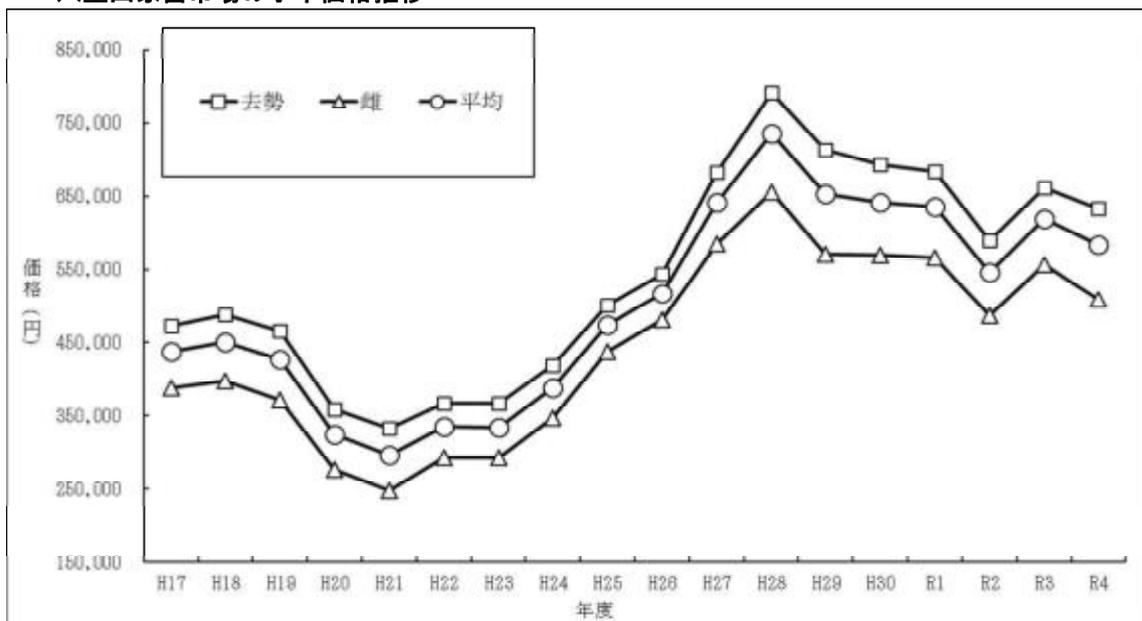
子牛のセリ市場実績(八重山、黒島合計)

項目 年	開場 回数	上場 頭数	成立 頭数		売上金額 (千円)	1頭当 平均体重 (kg)	1頭当 平均価格 (千円)	生体1kg 当単価 (円)
			去勢	雌				
平成20年	18	9,823	5,612	3,992	3,081,391	260	321	1,235
平成26年	18	8,750	5,082	3,668	4,525,622	255	517	2,028
平成27年	18	8,862	5,100	3,762	5,410,058	260	610	2,452
平成28年	18	8,848	5,208	3,640	6,509,982	264	736	2,794
平成29年	18	8,990	5,261	3,729	5,866,229	267	653	2,444
平成30年	18	8,848	5,167	3,681	5,677,524	269	642	2,381
令和元年	18	9,089	5,262	3,748	5,718,732	269	635	2,355
令和2年	18	9,216	5,285	3,801	4,954,378	274	545	1,985
令和3年	18	9,430	5,384	3,687	5,607,232	278	618	2,227
令和4年	18	9,249	5,444	3,705	5,294,526	277	578	2,089

※平成20～23までは年次、24年以降は年度集計

資料:八重山家畜保健衛生所

八重山家畜市場の子牛価格推移



資料:八重山家畜保健衛生所

※平成21年度までは子牛生産拡大奨励事業
平成23年以前は年次、24年以降は年度値
平成30年12月事業終了